

見えない感覚で

～視覚障害者の空間把握の視点から～

季節の香りを三大香木から場所によって香りが異なる。

棚には本や触れる美術品壁をたどって歩くと出会える

傾斜を下がると必ず外に出られる。失敗に寛容なことは行動の自由度につながる。

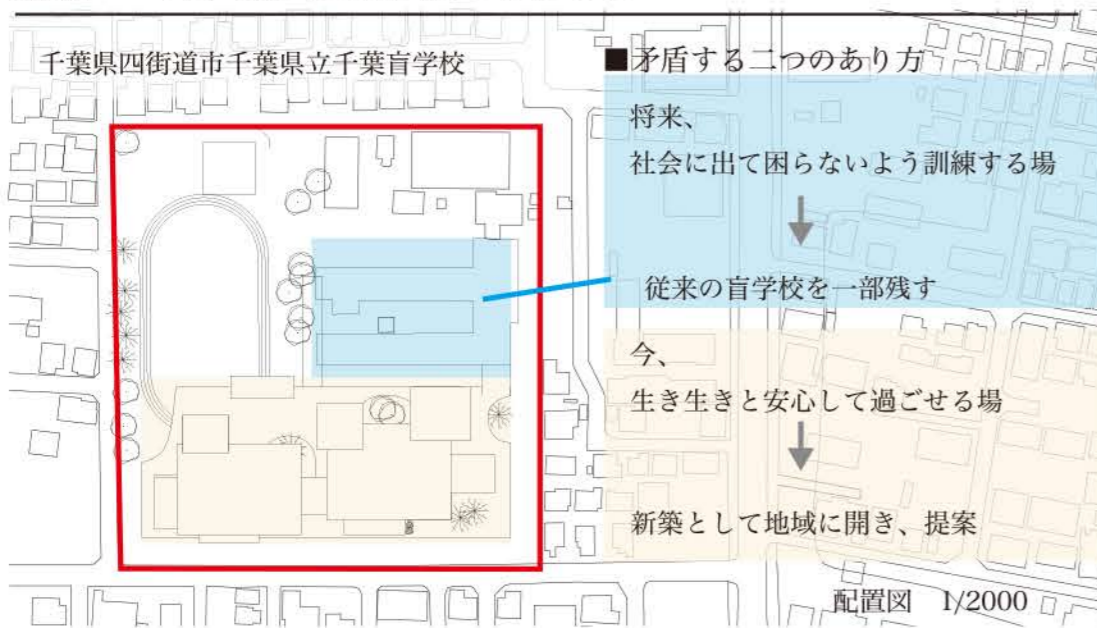
平らなところをたどってショートカット

初めて来た人も壁をつたってすべての部屋を通ることができる。

設計趣旨 見えない人の世界から建築をとらえ直す

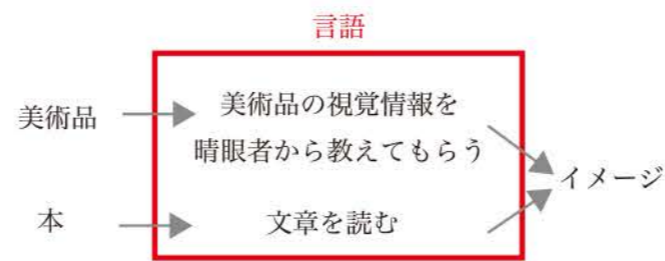
見えない人からみた建築や世界はどうなっているのか。また、見えない人からみたら建築やその構成要素の役割は変わるのではないかな。違うバランスで世界をとらえる人の立場で建築を考える。

敷地 盲学校が建築に求めるあり方

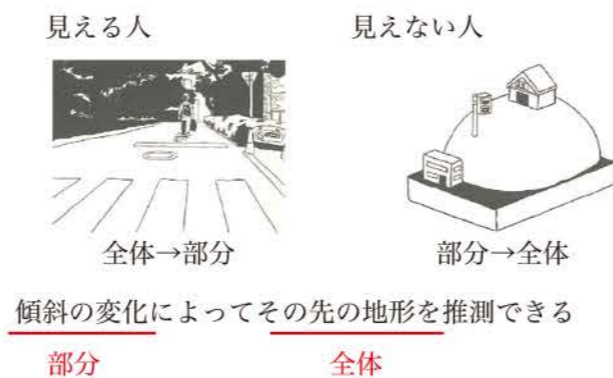


調査 視覚障害者の空間把握

■視覚情報を言語から得る



■とらえる「部分」のスケールの違い



プログラム

見えない人にとって、美術品を見ることと本を読むことは似ている

- ①言語化された視覚情報をイメージする
- ②一つのものを時間をかけて触る

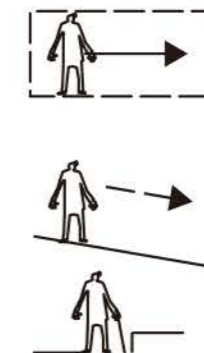
ビルディングタイプの統合



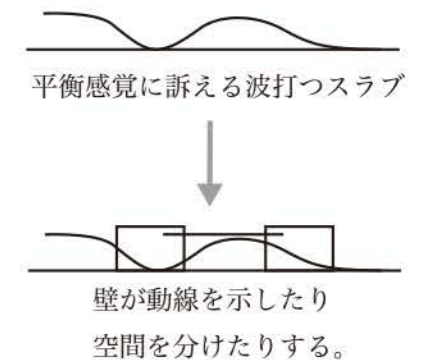
分析

■建築の構成要素が持つ役割を再定義する

- 1、壁
 - ・自分がいる場所を示す
 - ・動線を示す
- 2、傾斜
 - ・自分がいる場所を示す
 - ・方向を示す
- 3、段差
 - ・空間の端をつくる



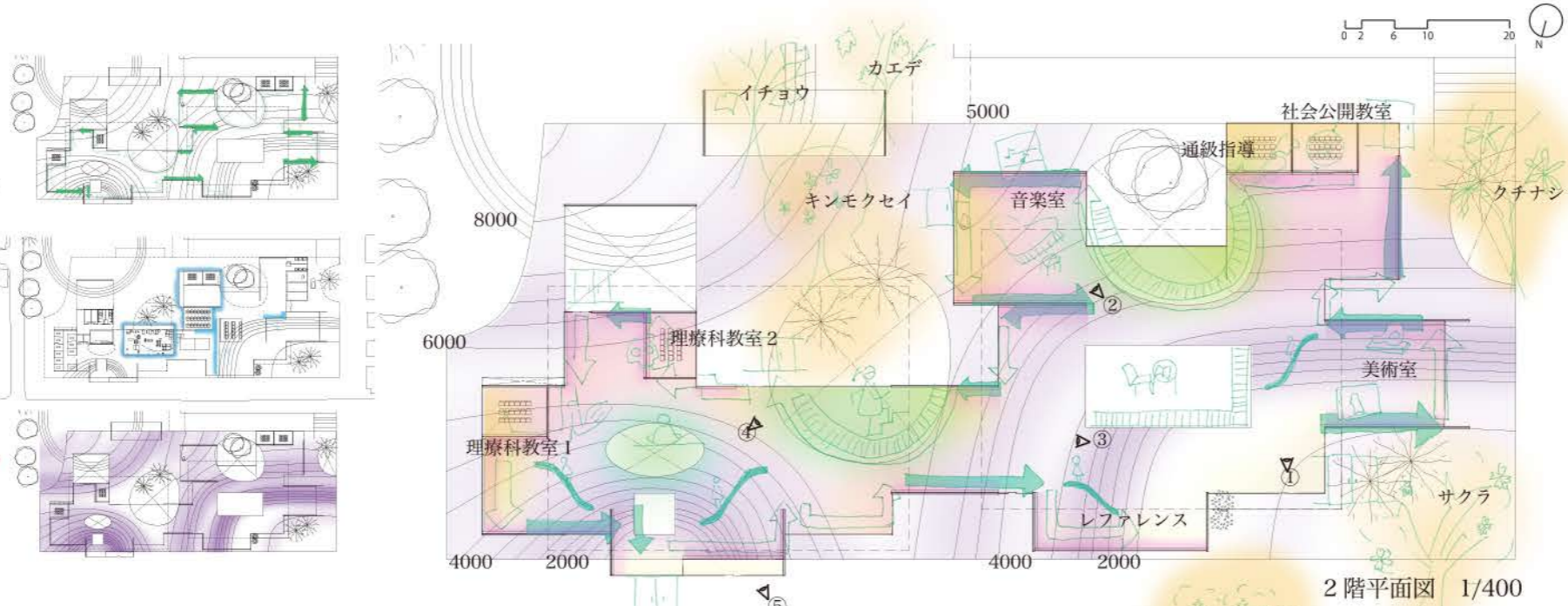
ダイアグラム



平面図

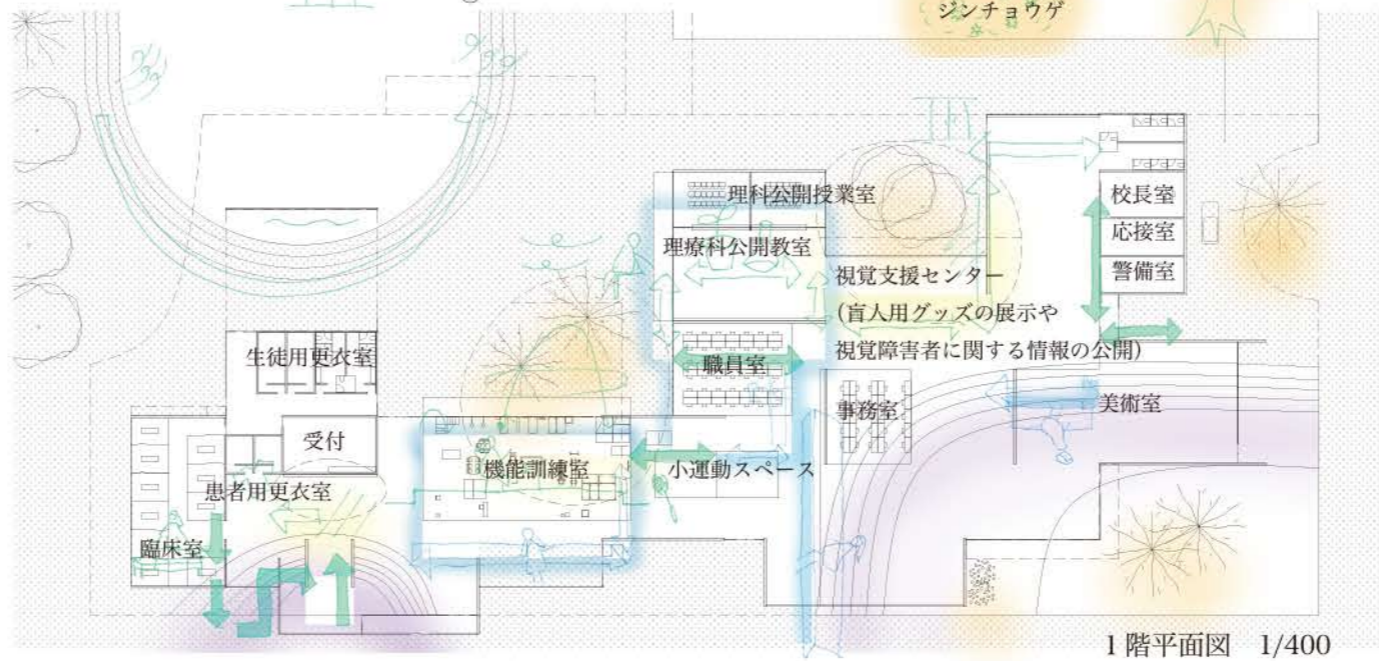
建築の構成要素の仕掛け

- 壁が動線になる**
 初めて来た人も壁をつたってすべての部屋を通ることができる。
- 段差が空間の端を示す**
 ワンフロアの空間も段差でゾーニングを理解できる。
- 傾斜が空間に方向を与える**
 傾斜を下がると必ず外に出られる。
 失敗に寛容なことは行動の自由度につながる。



周辺的环境やアクティビティ

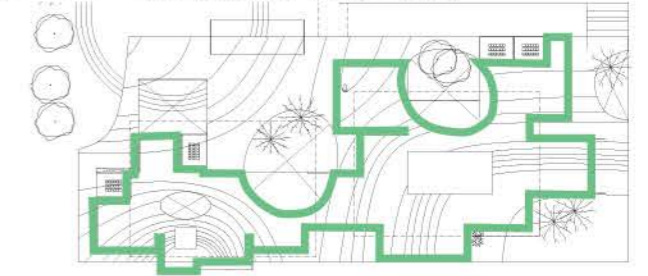
- 光**
 三大香木が場所に性格を与える。
- 匂い**
 風が当たらなくなった今3周目だ！
- 音**
 5番の山田さん 診療の順番です
- 空気の流れ**
 空気の流れの変化から自分の位置をつかむ
- 温度**
 ガラス面から光が差し込み 傾斜の上下で温度が変わる
- 触る**
 盲学校の壁周辺は動線になるため壁際に物を置けないが手すりのような役割もする本棚が物を吸収し危険なく本や美術品と出会う。



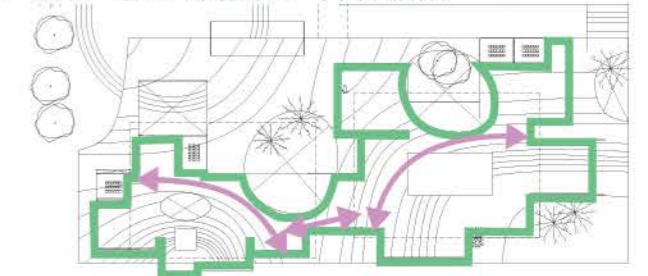
歩行のレベル別動線の選択性

歩行者がその空間に慣れているかどうかや歩行訓練のレベルに応じて動線を選択できる。

レベル1 線型空間把握 (壁をつたう)

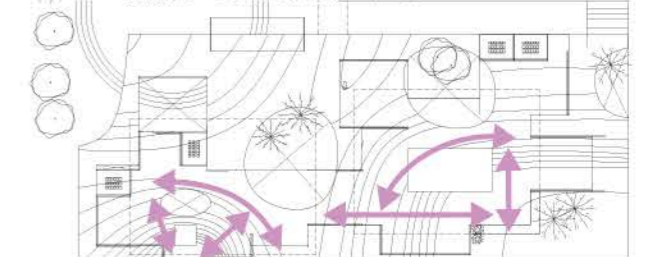


レベル2 線型空間把握 + 平面の認識



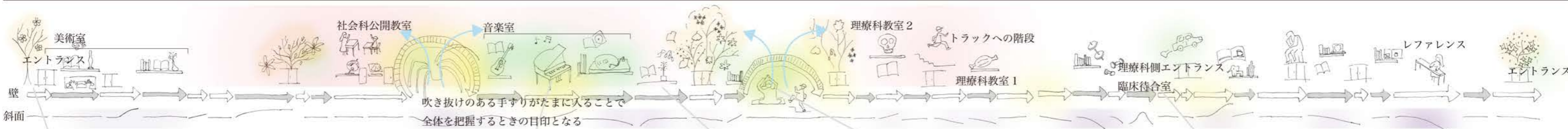
(傾斜のないところを進み、ショートカットする)

レベル3 傾斜から方向性をつかむ



(等高線に対して垂直に進んだり平行に進んだりする)

緑の線上を歩いた時の見えない人の空間体験



ガラスの多いこの空間で 傾斜に沿って登って行くと 温度も上がっていく

見える人と見えない人が一緒に美術品をみる。互いの感じ方の違いを楽しみながら、新しい感覚で鑑賞する。

① エントランスより

音楽室での演奏 地域の人に発表会

② 音楽室をみる

レファレンスの上部から

③ レファレンスの上部から

機能訓練室や小運動スペースの賑やかな声が聞こえる

吹き抜けから 空気の流れを感じられる

④ 機能訓練室

待合室のコの字をくぐると 受付に光が届く

臨床室受付の呼び出しの音が聞こえる

理療科の治療を受けに来た地域の人が 順番待ちをしながら図書館で本を読んだり、図書館を訪れた人と交流できる

⑤ 理療科側エントランス、待合室